

神がイスラエルの民をエジプトの奴隷から救いだされた時、紅海を渡り、荒野へ進みなさいと命じられた。新しい生活の賜物を授かったにもかかわらず、食べ物は粗末で、水が足りないと人々は不平を述べた。神の奇跡的な救済にもかかわらず文句を言った。そしてエジプトの奴隷に戻りたいと切望した。(民数記14章)

しかし神は寛容であられた。神はモーセに命じられメリバにある岩を打たせた。紅海を渡る時、モーセは海に阻まれたが、その時の共にいた司^{つかさ}を使った。この時も同じ司が岩盤から水を沸き出させ、清水の流れに変えさせた。神は再び奇跡を行い、人々を救済された！

しかしイスラエルの民は満足しなかった。神が彼らにどんなに寛容な方であっても、彼らは貧欲で、常にさらなるものを求めていた。

貧欲であるが故の常なる結果は、己のためにすべてを要求する。そのため神は毒蛇を送って人々を死に追いやられた。神がお怒りになったからではなく、私たちが貧欲であれば、常に悪い事が起こるのだ。

しかし神の寛容さは決して終わることはない。神はモーセに命じられて青銅から蛇を造らせ、旗竿の先に掲げさせた。人々はやってきて青銅の蛇を仰ぎ見ることができた。人々が青銅の蛇を仰ぎ見れば命を得た。最初の寛容さはエジプトからの脱出であり、二度目は奇跡の清水の噴出であり、三度目は毒蛇にかまれた時の癒しであった。

何かの迫りくる脅威から救うため、偶像はそれを取り除くための古代の思いつきであった。青銅の蛇に接近しようとする人々にとって、蛇は恐竜のように大きく、恐怖であった。巨大な金属の蛇は、(生きた)毒蛇よりもはるかに危険だと人々は確信した。殺されるかもしれないものに、誰が近付くのか？ 誰もいない！言い換えると、神は人々に私たちが常に行う正反対のことを告げられた—死が近付いてきたなら、死を仰ぎ見よ。それが癒される道であった。

イエスはご自身を蛇と呼ぶ驚くべき事を言われた。誰がイエスを「私は蛇である」と言われると思ったのか？ ご自身が旗竿に掲げられる蛇であるかのようにイエスは言われた。イエスの十字架上の死は、モーセが青銅の蛇を旗竿に掲げたようであったのだろう。イエスは旗竿に掲げられ、私たちが脅かすもの(死)を仰ぎ見ることができる。それは私たちが最後に望むことであり、イエスが私たちに永遠の命を与える道である。

イエスは正しかった。死はすべての人の人生に起きることであり、私たちに怖がらせる。逃避するのではなく、さらに近くで対処する道がある。学校の試験に落ちるのを恐れる若者を考えてみよう。この若者が恐れから逃避すると、すべては大丈夫だと装うのである。それ故、彼らは勉強をしなくなり、試験に失敗するのだ。イエスは正しい。若者は試験に落ちる恐れにもっと接しなければならない。そしてなぜ恐れのために逃避するのかを自問しなければならない。おそらく失敗するという恐れが、若者を失敗させるのだろう。若者は、彼ら自身が賢明であるとは思っていない。得意であるものを学ぶ必要があるのだ。そしてその道をたどるのだ。恐れに向き合っただけのみ、若者は成長する。それには方向を変えることだろう。逃避は決して解決にならない。新しい方向、彼らの本当に得意な勉強が、新しい人生を満たすであろう。

私たちが少しずつ年齢を重ねると恐れることが出てくる。それは私たちが思っていたほど賢明ではなく、印象的でもなくなったことである。これはすべての人が経験すると思う。そしてもっと首尾よく、もっと印象的に、もっと重要でありたい願う。恐れに対処する道は、逃避することではないとイエスは告げられている。なせなら、自分が思ったほど私たちは素敵でないと恐れ、そこから逃避するなら、私たちは利己的、自己本位、腹を立てる人になるだろう。そしていつも失敗を恐れるようになる。しかしもし私たちが本当に誰であるかを見極め、全く得意でないことを放棄するなら、私たちは神から何か違う呼び掛けが聞こえるかもしれない。いまの私たちであるだけで、私たちが思ったより、私たちはより大切に、幸運であると言われる神の声を聞くだろう。私たちに恐れさせるものを仰ぎ見ることによって、私たちはより円熟し、堅実で、愛情に満ちた者となる。人々はそういう私たちに敬うのだ。

現代社会で私たちが直面する死の道は、イスラエル人と同じであった。^{ひと}現代社会は私たちに、さらに、さらに、さらに欲しなさいと告げている。世界は、私たちが決して満足しないようにと助長している。私たちの文化に、重要で成功するためには、さらなるものが需要であると告げるあらゆるメッセージがある。さらに多くのものを所有することは、荒野の蛇のような死の形である。蛇は私たちにささやくー私たちは十分ではない、たくさん所有しても問題はない、貧欲であることはよいことだ。しかし貧欲さは私たちの世界を危険にする。息子、娘、孫たちを危険に晒させる。^{さら}もし私が貧欲さのためにすべてを使いきるなら、生きて行く孫たちには何も残らない。しかし蛇は言うー心配するな、すべては大丈夫だ。お前が望むものは何でも持ってゆけ。

イエスはこれに対してどのように言われるだろう？

イエスは「来なさい、私の死を仰ぎ見るのだ」と言われている。

それは蛇が言ったような魅力あるものには聞こえない。

真実は時折、私たちの貧欲さを断念し、誰かを愛するために私たちの安全性（保身）を断念する必要がある。そこにイエスの死の大きな意味がある。

人を愛するために何かを断念することは、時には死のように感じることがある。

イエスの死を仰ぎ見る時、何が起きているか。

イエスの愛が私たちの魂の一部になっている。

イエスは喜んで私たちの一部になられるー

それは私たちにとって人を愛することが、さらにさらに易くなる、

私たちが誰かのために尽くすことが、さらにさらに易くなる、

私たちが円熟した人々になることが、さらにさらに易くなる。

私たちの小さな死(our little deaths)は、キリストの死の小さな形となる。

これらの小さな死を通してイエスの素晴らしい復活が私たちの命に起きるのだ。

イエスは言われているー「わたしの死を、わたしの磔刑をよく見るがよい」。

恐れることはない。あなた方が受ける小さな死を恐れることはない。

イエスの死と磔刑を深く考えることは、あなたにとって、あなたの子供にとって、あなたの孫にとって、そして世界にとって、新しい命の源になるだろう。

大斎節の期間、イエスが私たちのためになされたことがわかりますか？

大斎節中は、小さなこと、小さな楽しみを絶つのです。

私たちが絶ったなら、イエスの死を少し体験できるのです。

そしてイエスの復活が私たちの心の中で大きく成長し始めるのです。

大斎節は、私たちの一生涯のために本当の何かが起きるのです。

私たちの生涯を通してイエスの死を日毎に仰ぎ見ると、

さらにさらにイエスの復活に関与できるのです。

イエスは蛇となられて、私たちに永遠の命の賜物を与えて下さっています。

聖霊の源において、主なる神、父の子イエス・キリストに感謝を捧げ、ほめたたえます。

私たちが死を迎えることによって、イエスが私たちと全世界の永遠の命となられます。

主に感謝します。

(文責長澤猛)